自然と心の豊かな故郷　湯田学区
広報　ふくら

第８号
平成２３年１１月
編集発行
湯田学区
地域づくり協議会
連絡先
湯田公民館
電話　74-1438
FAX　74-1427

ふくらの森再生事業
資源利用や自然観察の活動が進められる

一昨年から地域振興部会の提案事業として市から補助を受け、ふくらの森の再生活動がすすめられています。十月末には平成２４年度の事業提案書を提出しました。提案事業内容の概要はまず過去に整備された区域の下刈りと散策コースとして整備された里道延長およびチップロードとしての整備、湯田小学校と連携した自然観察教育プログラム開発と実践、森林保全活動への学区民参加を促す「里山ふるさと塾」（仮称）の諸事業に対し以上を市へ予算要求をしました。

第二回クリーン作戦実施
軽トラ二台分のゴミを回収

十一月十三日（日）には安全環境部会がクリーン作戦で保育園前の駐車場に集合、２３名の参加者は二班に分かれ、ふくらの森周辺道路のゴミ拾いを行いました。昨年度は初めてのクリーン作戦で白物家電やタイヤ、バッテリー、バンパーなどの粗大ゴミと４０袋のゴミが回収されました。

今年は道路から森の中に入って丁寧に拾っていただき、約３５袋のゴミを回収しました。動員は各自治会長さんにお願いしましたが、今年も自治会役員が組織的に出ていただいた町や一人も出られない町など取り組みに片寄りがあることが今後の課題です。

チッパーシュレーダー活躍

十一月二十日（日）の第三日曜日は定例のふくらの森整備活動日です。この日は森林組合からチッパー（木材粉砕機）を出してもらい、伐採した木や枝をチップにする作業がなされました。春からの伐採作業で木の下に積まれていた枝木をこの機械にかけますとたちまちチップになります。それを整備中の四尺幅の里道に敷き詰めます。

この日は寒く時折しぐれる天気でしたが皆さん奮闘！市道大依道から西約５０ｍに軽トラ二台分のチップが敷かれ、フワフワとした歩きやすい里道に変身しました。引き続き２３日の午後に残りの作業が行われました。

十二月十八日（日）は今年最後の行動日となっています。部会の皆様以外の多くの皆様のご協力をお願い致します。

ふくらの森観察会が行われる

あざい歴史の会が「秋のふくらの森を観察しよう」と呼びかけて実施した自然観察会が十一月二十三日午前十時から行われました。親子づれや森を整備しておられる地域振興部会の皆さん約３０名が「仁衛」西の広場に集まり、まずふくらの森の歴史について学習しました。その後歴史の会会員の清水さんの指導で早速森に入りました。

ここから里道は西の方向に伸び、市道大依道を横断して国道３６５号線に通じています。この間の約６００ｍには広葉樹が茂り、どんぐりの実がなるブナ科のアベマキやコナラが黄葉していました。ツタウルシやヌルデは皮膚に炎症を起こす厄介ものですが見事な赤に紅葉し、手に届くところにはアオキやガマズミが赤い実をつけていました。子ども達はこれらの実やドングリや落ち葉を拾って元の場所に戻り、葉っぱのしおり作りや木の実のクラフト作りをしました。【写真上】最後にスタッフの皆さんがおいしく焼き上げた焼き芋をいただき、有意義な観察会を終えました。なお、年内には湯田小６年生の粘土細工の焼成や自然観察行事が計画されています。このようにふくらの森が、学校教育や市民の憩いの場として活用され始めました。

第２回　湯田学区民まつり
with　防災フェア開催
開会前には歴史ウォークが行われる

十月二十三日（日）湯田公民館で、**第二回湯田学区民祭り with 防災フェア**が開催されました。今年は、ボランティアとして浅井中学校の生徒が参加し、開会式では吹奏楽部の演奏がオープニングを飾りました。スタッフとして手伝ってくれた三名の生徒は模擬店や抽選会場だけでなく、最後の後片付けまで残って地域の人と交流を深め大活躍しました。

防災フェアではバケツリレーが行われ、６チームが競争して三田町が優勝されました。その他の催しとしてはしご車乗車やけむり体験、大震災のDVD上映や写真展示も行われました。防災フェアは昨年度は八月に行われました。しかし単独での催しは参加者が少なく、今年は学区民まつりとタイアップして開催されましたが、模擬店の経営などもあって安全環境部の負担が大きくなります。これは今後の大きな課題となりました。有事に即応して各自治会と湯田公民館との無線通信実験も行われ、最新の無線機の威力が証明されました。

また現在プラザふくらの森や歴史民俗資料館で行われている浅井三姉妹博に地元の人々を呼び寄せる目的で、入場券や三姉妹グッズなどの当たるお楽しみ抽選券も配られました。

なお、開会前には初めての企画として、北国脇往還を公民館から実宰院まで親子で歩く歴史ウォークが行われました。

浅井中吹奏楽部の演奏

たこやきを焼く中学生スタッフ

防災バケツリレーの様子

消防車もフォトサービスで出動

三姉妹グッズや入場券の当たる抽選会

湖北チンドン一座が賑やかに

人気の竹筒ホットケーキ作り

安いよ美味いよ！繁盛する模擬店

東北支援の物産展

連合自治会による餅つき

第四回通学合宿報告

休日の特別活動で巣箱作り

今年も、七月九日（土）と九月十一日（日）の二回の実行委員会協議を経て、四回目の湯田小、浅井中学校通学合宿が湯田公民館で行われました。募集は八月末から九月にかけて行われました。定員を超える応募者は、過去の合宿の評価のあらわれであり喜ばしいことです。以下はこの通学合宿の活動を時間を追って報告致します。

二日前にオリエンテーション　生徒、保護者、学生一堂に

九月十九日の午前中に、実行委員会スタッフの5名が名越町のサイクリングターミナルから布団などの寝具類を公民館に運び入れました。午後1時半から集会室でオリエンテーションが行われ、参加生徒と保護者、スタッフが出席しました。生徒たちの世話をする大学生スタッフも全員が出席、4班にグループ分けされた生徒達に加わりました。生徒にとってこの日は学生との初顔合わせでみんな緊張気味です。【写真左】

合宿前のオリエンテーションの模様

西川実行委員長は

「この集団生活を通して小、中学校の交流を図り我慢することや他人への思いやりなど、人間として大切なものを学ぼう。大学生の皆さんは自己の成長のためにこの機会を活かそう。ここの参加者の皆さんも地域にどう生きるか、そのあり方を学ぼう」とあいさつされました。

初日は台風接近で混乱

九月二十一日の合宿第一日は台風15号の接近で学校は臨時休校となりました。午前9時に関係者が公民館に集合、台風情報で今後の進路を見ながら午後3時に実施するかどうかを判断することになりました。生徒宅にはそれまで自宅待機を電話連絡、幸いにも台風は東にそれて風雨も弱まり実施を決定、指示通り午後五時には生徒全員が翌日の登校準備をして集合しました。

スタッフのおばさんに夕食作りを習う

この日の夕食を担当していただくのは健康推進員の皆さんです。総務部役員と連携しながら、手回し良く準備され、生徒も手伝って【写真左上】予定より少し遅れて夕食を摂ることが出来ました。メニューは寿司、鶏肉の南蛮漬け、澄し汁と豪華版、食事の後片付けも二班が厨房に運び、他の二班は食器洗いと全員が協力、午後8時過ぎには生活安全部のスタッフの誘導で近くの「あねがわ温泉」に入浴に行き、心労の多かった第一日目が終わりました。

スタッフに守られ学校へ

二日目の二十二日は台風の余波で朝から雨、中学生は自分の身支度をしてそれぞれ登校し、小学生はスタッフと一緒に集団で登校していきました。

午後もスタッフが迎えに行き、生徒たちは疲れた様子もなく元気に下校しました。到着すると皆でうがいをします。【写真左】

外から帰ったらいつもうがいをしようね

宿題も頑張ったね！

部屋へ戻るとすぐに大学生に見てもらって宿題をします。特に今年は9名の大学生たちが生徒と密着して四日間を通し、誠実に任務を果たしてくれました。【写真右下】

大学生のお姉さんに宿題を教えてもらう

三日目は　鳥の巣箱作りに挑戦

三日目は勤労感謝の日で学校は休日です。この日は午前中、鳥の巣箱作りをしました。天気も回復し、公民館前の広場にテントを建て、地域振興部会の中川仁男さんから巣箱をかけるふくらの森について話を聞き、森林組合でつくっていただいた板の材料をもらって制作に取り掛かりました。慣れない金槌やのこぎり、ドライバーを動かします。当日は約30名のスタッフに出ていただき、大学生も手伝いました。【写真右下】巣箱が完成した者は食事づくりをします。みんなでつくったカレーの昼食をいただき、午後は全員がふくらの森へ巣箱をかけに出かけました。

ふくらの森に巣箱をかけるスタッフ

巣箱はみんなで協力してつくりました

現在ふくらの森は、当協議会地域振興部会の皆さんによって再生整備中です。この森の市道大依道沿いの木々に、湯田学区老人クラブ会長の北川義昌さんはじめスタッフの皆さんのご協力で、生徒たちの名前入りの巣箱が32個かけられました。【写真右】

四日目の最終日は全員で後片付けをした後、まとめの集いが行われました。各班が前に出て、一人一人がこの四日間の感想発表をしました。大学生からは生徒の検討を讃える手作りの「表彰状」が皆に手渡されました。迎えの保護者の前で、生徒たちは誇らしげに受け取っていました。わずかな期間でもこの集団生活を通して関係者との絆が深まり、家庭や学校とはまた違う、目に見えない成長をしたと思われます。

希望者は当初35名でしたが、最終の参加者は32名でした。特に注目しておきたいのは参加者の中の14名小学生6、中学生8）がリピーターであることです。過去四回の通学合宿にすべて参加した中学生もいます。こういう生徒がリーダーの役割を果たしてくれています。この合宿では最初に守るべき約束事をみんなで決めますが、違反者にはこの生徒たちが注意してくれる場面がいくつもありました。この姿はスタッフの皆さんや各種団体の皆さんに長年ご苦労をかけてきたたまものと言えます。この生徒たちが今後高校生、大学生となり、通学合宿のスタッフとして、また、社会人として地域社会発展のために貢献をしてくれるものと期待されます。

文責　評議委員長）

生徒たちがお世話になった　実行委員会の皆さん

○総務部

近藤信行　連合自治会長・地域づくり協議会会長　梅本敏夫　民生児童委員湯田学区代表　北川義象　湯田学区老人クラブ連合会会長　清水利展　地域づくり協議会評議委員長　西川裕治　同教文体部会長・通学合宿実行委員長　近藤秀之　同地域振興部会長　伊吹正弘　同教文体副部会長　饗場真司　同事務局長

○庶務部

筑紫　弘　同総務広報部副部会長
梅本浩幸　同事務局会計　前本幸雄　湯田公民館長

○活動部

小畑茂子　浅井中学校ＰＴＡ母親代表　新井かおり　同協議会総務広報部会長　中川宰之　同教文体副部会長・通学合宿副実行委員長　北川昭浩　同副部会長　川添義夫　同部会員　本庄ひろ子　同部会員　大依久人　同部会員　中川仁男　同地域振興部副部会長　片桐達夫　同副部会長　井上英雄　湯田公民館職員

○食事部

金子嘉徳　同健康福祉部会長　清水美千代　同副部会長・通学合宿副実行委員長　北川文子　日赤奉仕団団長（ほか団員８名の皆さん）　宮本照子　健康推進員代表連絡員（ほか委員４名の皆さん）　岡本順子　更生保護女性会支部長（ほか会員６名の皆さん）　前田史子　湯田公民館職員

○生活安全部

辻本喜明　子ども安全リーダー代表　吉田耕七　湯田小学校ＰＴＡ会長　勝木俊次　湯田小学校校長　西島顯二　湯田小学校教頭　徳永嘉之　浅井中学校校長　喜田憲恵　浅井中学校担当教諭　藤田登　同安全環境部会長　松尾眞　同副部会長　奥出隆夫　同副部会長